

伊予神社のお松狸
まつたぬぎ

昔、吉津の伊予神社の東の隅に太い楠の木がありました。その幹に大きな穴が開いており、そこにお松狸という赤い顔の狸が住んでいました。このお松狸、悪賢く、人を化かすのがなかなかうまくいったそうです。

ある日の夕方、お松狸は神社のすぐ北の札ノ辻の土手まで行ったとき、人に出逢ったので、黒いかたまりになって道にうずくまっていた。そうとは知らない下高瀬のうどん屋のお婆さんは、その黒いものを何気なくまたいで通りました。ところがその夜中に、表の戸をたたく音がするので、「はいはい」とお婆さんが出て行くと、あしたの朝までうどんを百人前作ってくれとのことでした。どこのだれかとは確かめませんでした。うどん屋は家内総出でうどんを打ち出しました。朝までという注文なので、夜どおし眠らずにうどんを打ちました。

やっと注文どおりのうどんを打ち上げたのは、夜も白々と明けてから。「ああ、やっと間に合った」とお婆さんは大きく背伸びをしました。注文主がもう来る筈だとお婆さんは待っていました。ところが、いっこうに受け取りにきません。昼になっても、よわぎになっても現れません。どうとうたたくさんのうどんを腐らせてしまい、大きな損をしまいました。これは、お松狸がお婆さんにまたがれたのを恨みに思い、こんな仕返しをしたのでしようか・・・

また、あるところに、良縁がなく婚期を過ぎようとしていた娘さんがおりました。ある時、縁談があり、とんとん拍子に話が進み、丸亀へ嫁入りすることになりました。結婚式のお祝いはずみ、お客さんたちは酔いつぶれて寝こんでしまいました。

翌朝、夜が明けはじめて驚いたことに、土器川の河原で全員寝ていてはありません。花嫁は、石の上へぼつんと一人で座っていました。もちろん花婿の姿は見えません。朝霧が、さらさらと河原の草を輝かせていました。

花嫁は、しくしく泣きながら石の上から降りてきて、そして、恥ずかしそうに村から出て行ってしまいました。これは丸亀城の狸とお松狸が示し合わせた念のいった悪戯だったのです。

また、ある時、津の前の若者が三人、伊予神社へ草刈りに出かけました。鬼茅を刈っていると、茅のなかで狸が寝ているではありませんか。そーっと近づいて様子を見てみると、よほどよく眠っているときえ、若者たちが近づいても起きてきません。若者たちは、目で合図あって狸を捕まえしりあげ、生け捕りにしました。その狸がお松狸だったのです。



お松狸イラスト:三野津中学校生徒考案